

## 古代 相模の国を訪ねる

平成30年2月16日（金） 案内者 常任理事 森田三男 幹事 岩本勝義

理事 大内登、大野悦治、矢野美保子

コース 7時集合 北越谷駅—（高速道）→**1**日向薬師（宝城坊）→**2**白髭神社

<昼 食>

**3**寒川神社→**4**相模国分寺跡・郷土資料館→**5**相模国分寺

**6**相模国分尼寺跡—（高速道）→北越谷駅<19時半頃着・解散>

### はじめに

相模国は、相模川流域の相模国造と、酒匂川流域の師長国造の領域と、鎌倉別の支配する鎌倉・三浦からなる。そして神奈川県域の南武蔵三郡は、無邪志国造によって支配されていたと考えられている。7世紀半ばから8世紀初頭に向かう中央集権体制が整う時期に、中央から各国に国司が派遣された。国司が政務をとる政庁（国衙）の所在地は、国府と呼ばれた。武蔵国の国府は、東京都府中市大国魂神社付近といわれ、明確であるが、相模国の国府の位置は、明確ではない。時代によって、国府の位置が変わっていったと思われる。

8世紀半ばに発せられた聖武天皇の詔によって各国に建てられた国分寺の位置は、武蔵国のように、国府の近くが選ばれる場合が多い。しかし、相模国の場合は、国府の場所が平塚市だったにしろ大磯町にしろ、近いとはいえない。

今回の史跡めぐりは、相模川流域にある相模国分寺跡や、寒川神社を訪ねる。また、聖武天皇に登用された行基によって開創されたという日向薬師にも訪れる。古代の相模国を少しでも肌で感じていただければと思う。

# 1 ひなた ほうじょうぼう 日向薬師（宝城坊）（伊勢原市日向1644）

宝城坊（一般的には日向薬師と呼ばれ親しまれている）は、靈龜2（716）年、僧行基ぎょうきが開創したといわれる靈山寺りょうせんじの別当坊である。かつては、他にも、坊中八大坊、十二坊というように、たくさんの坊が有ったといわれるが、宝城坊だけが現存している。

本尊は薬師如来、行基の作といわれる。

歴代天皇の帰依深く、元正天皇はみことのり 詔どううして堂宇を造営し、勅願寺とした。また以後の天皇も梵鐘を鑄造、改鑄、寄進している。

## 主な文化財

### （本堂）国指定重要文化財

朱塗り単層茅葺き。靈山寺の本堂を引き継いだものである。万治3（1660）年に建てられた。部材の一部は、旧本堂のものが利用された。

### （銅鐘）国指定重要文化財

銘文によると、天曆6（952）年に村上天皇が寄進した。仁平3（1153）年に改鑄りやくおうし、暦応3（1340）年、物部光連もののべみつらが鑄造したものが現存している。

（仏像）宝物館に、以下の仏像が安置されている。

### 本尊 薬師如来像、両脇侍 日光菩薩像、月光菩薩像 国指定重

要文化財。薬師三尊。鋭い鑿痕のみを残す、鉦彫りなたという技法の代表作として名高い。かつては本堂に安置されていたが、現在は宝物館に納められている。正月3が日、1月8日、4月15日のみ開扉され、拝観が可能である。天曆6（952）年前後の作か。



本尊 薬師如来像 →

**阿弥陀如来坐像（丈六像）** 国指定重要文化財。鎌倉時代前期の作か。

**薬師如来坐像（丈六像）、日光菩薩立像、月光菩薩立像** 国指定重要文化財。いわゆる”前立ち“薬師三尊。鎌倉時代初期の作か。

**四天王立像（4体）** 国指定重要文化財。持国天、広目天、増長天、多聞天。かつては本堂に安置されていた。鎌倉時代の作か。

**十二神将立像（12体）** 国指定重要文化財。鎌倉時代末期または南北朝時代初期の作か。

一方、本堂内には、以下の仏像が安置されている。

**十二神将立像（12体）** 県指定重要文化財。

**（二本杉）** 県指定天然記念物

鎌倉公方の足利基氏は霊山寺に錦幡を奉納し、平和と五穀豊穡を祈った。基氏が奉納した幡を、この杉に掛けたことから「幡掛けの杉」とも呼ばれている。

**（大太鼓）** 県指定重要文化財

建久5（1194）年、源頼朝が娘・大姫の病気治癒を願って納めたといわれている。

**（寺林）** 県指定天然記念物

仁王門から本堂の裏まで、木立がうっそうと茂っている。

## 日向薬師の参道

日向薬師に向かう参道を歩く（登る）と、石段の下に「<sup>いしょうば</sup>衣裳場」と呼ばれる踊り場がある。源頼朝が衣裳を整えたという伝承がある。石段を登ると「仁王門」が見えてくる。天保4（1833）年の再建。両脇の金剛力士像は、鎌倉の仏師 後藤運久の作という。

さらに進むと右側に「<sup>かぶと</sup>兜岩」がある。頼朝に従って来た武士たちが兜を掛けて休んだという逸話が残っている。境内までは、もうすぐである。

## 2 しらひげ 白髭神社（日向神社）（伊勢原市日向）

祭神は高麗王若光。こまのこにきしじゃっこう高句麗からの帰化人とみられる。大磯に上陸、相模川流域から日向一帯を開拓。『続日本紀』しよくにほんぎ大宝3（703）年4月に「従五位下高麗若光に王の姓を賜う」とある。（高麗王、すなわち高句麗の王ではなく、王という姓を天皇から賜ったということかと思われる。）

同じく『続日本紀』うつつ霊亀2（716）年5月に、駿河、甲斐、相模、上総、下総、常陸、下野国の高麗人1, 799人を遷し、武蔵国に高麗郡を置くとある。若光も武蔵国に移住したものと思われる。

このように、若光一族は、大磯に高麗山、高麗神社（明治時代に高久神社と改称）という地名、由緒を残し、現在の埼玉県入間郡日高町に高麗神社（若光を祀る）、高麗山勝楽寺（高麗王廟＝寂光の墓がある）という大きな痕跡を残している。

### 3 寒川神社 (神奈川県高座郡寒川町宮山3916)

永く相模国一之宮として崇敬されてきた古社で、旧国幣中社。祭神は寒川比古命ひこのみこと、寒川比女命ひめのみことである。全国唯一の八方除はっぽうよけの守護神として信仰されており、正月三が日には40万人が初詣に訪れる。

テレビ放送の関係者には古くから「視聴率祈願の神社」として知られ、新番組開始前に参拝を行うとされる。芸能人の参拝者も多い。

創建は古く、その年代は明らかではないが、平安前期の『延喜式』えんぎしき神名帳じんみょうちょうには相模国13社(延喜式内相模十三社)のうち名神大社みょうじんとされたのは当社のみで、古くから高い社格をそなえていた。



中世では源頼朝や小田原北条氏、武田氏ら武将の崇敬も篤く、小田原北条氏は、社殿の造営・修築を行い、徳川氏も社殿を再建し、社領を奉じるなど当社を保護した。平成9(1997)年には、本殿を含む社殿の建て替えを完了、装いを一新した。

#### 国府祭こうのまち (5月5日)

大磯町ろくしよの六所神社の伝統行事である。もともと国司が国内の主な神々を巡拝していたものを、国府の近くに総社(六所神社)を設け、ここに神々を集め奉祭したのが起源と考えられている。

相模国の国府祭の特色は、神揃山かみそりやまに寒川神社(一之宮)・川勾神社かわわ(二之宮)・比々多神社ひびた(三之宮)・前鳥神社さきとり(四之宮)そして平塚八幡神社みこしの御輿みこしが集合し、寒川神社と川勾神社の社人が上座を争い、「いずれ明年まで」という比々多神社宮司の調停で終わる座問答である。

はっぼうよけ

## 八方除の守護神

八方除とは、凶方位きょうがもたらす災厄さいやくを除く靈験を意味する。以下に述べる九星気学きゅうせいに基づき、方位の吉凶を占い、寒川の神に祈願し神札をいただくことで、方位の差し障りを取り除く。

八方とは、東・西・南・北に、東北・東南・西北・西南を加えた8方位のことである。寒川神社では、方位の吉凶せんだんの占断を、九星ごぎょうと五行に基づいて行う。(九星気学)

九星とは、一白いっぱく、二黒じこく、三碧さんぺき、四緑しりく、五黄ごおう、六白ろっぱく、七赤しちせき、八白はちぱく、九紫きゅうしに分類されるもの。それぞれ五行（古代中国の学説でいう宇宙を構成する五大元素＝木火土金水もくかどごんすい）の星を配してあらわされる。この星はその人の生まれ年と対応する。

## 武田信玄の奉納と伝わる六十二間筋 兜けんすじ かぶと

寒川神社の神宝の一つ。永禄12（1569）年、武田信玄が北条氏を攻めた小田原攻めに際し、寒川に陣を構えた。その時、武運長久を祈願して奉納したものという。

兜の内側には鑿のみで文字が細かく刻まれている。正面に当たる細長い鉄片はぎいた（矧板）には「天照皇大神宮」、1枚置いた左右には「八幡大菩薩」と「春日大明神」。さらに、1枚に1行ずつ「般若心経はんにやしんぎょう」がびっしりと彫られている。



## 4 相模国分寺跡（海老名市国分南）

国分寺は、天平13（741）年、聖武天皇により発せられた国分寺建立の詔<sup>みことのり</sup>によって、国（68か国）ごとに建てられた国家寺院である。七重塔<sup>しちじゅうのとう</sup>を建てること、「国分僧寺（金光明四天王<sup>そうじ こんこうみょうしてんのう</sup>護国之寺）」と「国分尼寺（法華滅罪之寺）」の二寺制などが、詔で示されている。

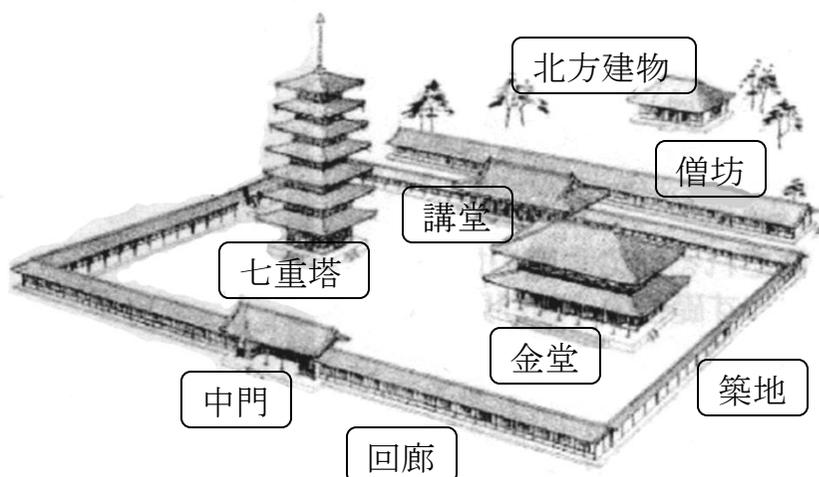
発掘調査の結果、相模国分寺（僧寺）は、8世紀中頃には創建されていたと考えられる。大正10（1921）年3月3日に、全国の国分寺跡としては初めて、国の史跡に指定された。

### 伽藍配置

寺院の伽藍<sup>がらん</sup>（建物）配置には、いくつかの方式があり、国分寺の場合も、①中門からみて、東側に金堂、西側に塔、塔と金堂の背後に講堂を配し、塔と金堂を回廊や築地塀で囲む「法隆寺式」、②南大門・中門・金堂・講堂が一直線に並び、塔は回廊外に置かれる「東大寺式」などが採用されている。

相模国分僧寺は①を採用、国分寺で「法隆寺式」を採っているのは、相模国と下総国の2国しか確認されていない。

伽藍地は、東西240m、南北約300mの範囲であつたと考えられている。



相模国分僧寺 伽藍配置イメージ図

## （七重塔跡）

17個のうち10個の礎石が現存する。この礎石の柱間から、高さ約65mの七重塔が建っていたと推定される。

平成4（1992）年の発掘調査で、水煙すいえんの一部が発見された。水煙は、七重塔の屋根のてっぺんにかざられていたもので、火炎かえんをデザインしたものである。火炎は火事とつながって縁起が悪いため水煙と呼ばれる。

右の写真は、海老名駅前にある七重塔の模型（3分の1）である。平成4（1992）年に復元された。



## （金堂跡）

36個の礎石のうち16個が現存。基壇外装は、スロープ状に盛土した法面に川原石を張り付けた葺石ふきいし状の外装で、全国的にみても事例が少なく特殊な構造である。

## （講堂跡）

礎石は12個が現存。建物の平面規模や基壇規模、基壇外装が金堂とほぼ同じであったことが確認されている。

## ■海老名市温故館おんこかん（海老名市国分南1-6-36）

温故館（海老名市立郷土資料館）は、相模国分僧寺跡の目前に立地。同僧寺跡が国指定史跡となった大正10（1921）年に国分寺跡保存整備事業の一環として考古資料等を保管・展示するため設置された「遺物陳列館」がその始まりである。その後、数度の移転を経て、平成23（2011）年に現在の場所に移築し再オープンした。

## 5 現・相模国分寺（東光山相模国分寺）

相模国分寺は、神奈川県海老名市国分南にある高野山真言宗の寺院。相模国分僧寺の後継寺院に当たる。

相模国分僧寺・国分尼寺は、鎌倉時代以降衰微し、南北朝を経て戦乱の時代に入り、兵災罹り堂塔以下悉く灰燼かかり ことごとくかいじんに帰したが、幸いにも寺域の一部丘陵の上に残った「薬師堂」を現在の境内に移し再興された。

本堂（現在の本堂は、平成6年に再建されたもの）、客殿、そして鐘楼があり、本堂には本尊の薬師如来、脇侍仏の日光菩薩、月光菩薩、そして十二神将などが安置されている。（非公開）



現・相模国分寺の本堂  
梵鐘 — 国指定重要文化財（大正12年指定）

梵鐘

鐘楼の中にある梵鐘は、国分に居館を構えていた海老名氏の一  
族・国分次郎源秀頼が、正応5（1292）年に国分尼寺に寄進し  
たもの。秀頼が、当時の名工「物部國光」もののべのくにみつに鑄造させたものである。  
國光は、鎌倉円覚寺の鐘（国宝）を鑄造したことでも知られる。

### 海老名の大ケヤキ

この櫓げやきは、かつて船繋ぎ用の杭として打たれた  
ものが根付いて発芽したものと言われている。  
株高 20m、幹回り 7.5m、

樹齡 300年以上



## 6 相模国分尼寺跡（海老名市国分北）

相模国分僧寺跡の北、約500mのところにある。

伽藍配置は、中門、金堂、講堂が一直線に並び、中門と講堂が回廊で結ばれる形式で、一般的に「国分寺式」と呼ばれるものである。

伽藍地は、175～200m四方と推定されている。

### （金堂跡）

28個のうち16個の礎石が現存している。創建時は礎石建物で、火災の後に掘立柱建物に建替えられた。



相模国分尼寺の金堂基壇跡

## 付1 古代行政制度

### ■ 畿内・七道

律令政府は全国支配にあたり、畿内と七道の8つの地区に分けて、それぞれ国を分置した。相模国は東海道に属した。

（ア）畿内（「五畿」ともいう）

山城・大和・河内・摂津・和泉

（イ）七道

東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・西海道・南海道

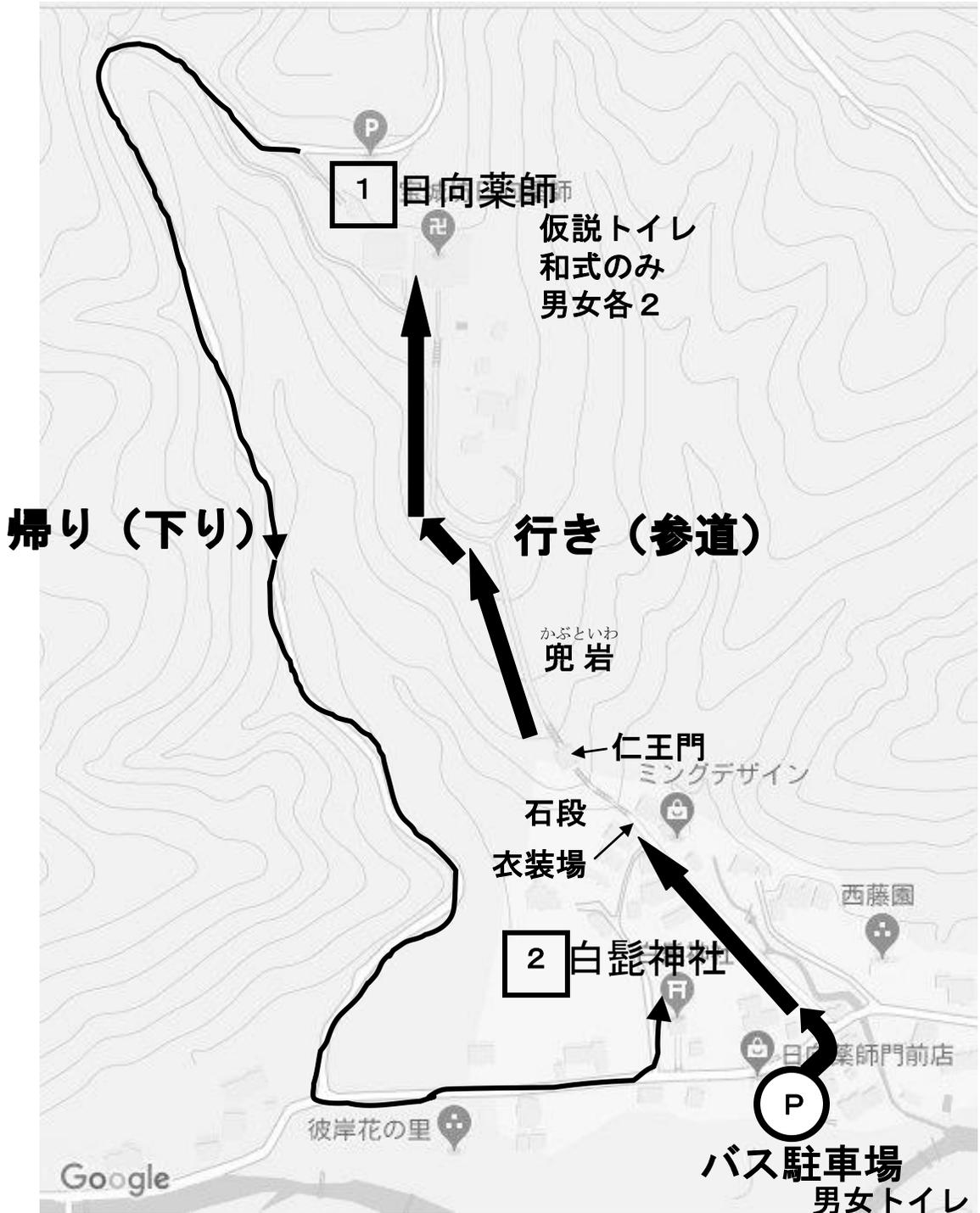
### ■ 国の等級

律令政府は、諸国をその国力により、<sup>たいこく</sup>大国・<sup>じょうこく</sup>上国・<sup>ちゅうこく</sup>中国・<sup>げこく</sup>下国の4ランクに格付けした。10世紀に編纂された「<sup>えんぎしき</sup>延喜式」（律令の施行細則集成）によると、全国68ヶ国のうち、大国は13ヶ国、上国は35ヶ国、中国は11ヶ国、下国は9ヶ国であった。

相模国は上国に格付けされた。

## 地図1 日向薬師、白髭神社

バス駐車場は、**1**日向薬師の手前 約500mです。そこから徒歩になります。行きは参道を登り、帰りは少し大廻りになりますが、舗装道路を下り、**2**白髭神社に寄ります。





# 地図3 相模国分寺跡、国分尼寺跡 周辺

